

沖縄における鉄軌道をはじめとする新たな公共交通システムに係る県民意識等実態把握調査

アンケート調査結果 パンフレット



はじめに

沖縄総合事務局では、今年度、公共交通機関に対するご意見を把握し、今後の基礎資料として活用することを目的として、「沖縄における鉄軌道をはじめとする新たな公共交通システムに係る県民意識等実態把握調査」を実施しております。

この冊子は、アンケート調査（県民意識調査、観光客意識調査）の結果を基に、沖縄本島における利用交通の状況、交通事情に対してよせられたご意見、現状の公共交通利用に対する課題意識、鉄道や路面電車のような新たな公共交通システムへの利用意向をとりまとめたものです。

調査の方法

県民意識調査は、日常の外出の状況、公共交通機関に対するご意見を把握することを目的として、県内4地区の中から無作為に調査対象となる世帯を抽出し、性別、年齢別構成比率に配慮しながら訪問調査で配布・回収する方法で実施しました。

また、観光客意識調査は、旅行形態や交通行動の状況、公共交通機関に対するご意見を把握することを目的として、空港・ホテル・レンタカーステーションなどで調査票を配布し、郵送にて回収する方法で実施しました。

□回答者の属性

<県民意識調査>

	サンプル数 (人)	地域構成 (%)	性別構成 (%)			
			男性	女性	無回答	
北部	292	12.7	49.7	50.3	-	
中部	1059	45.9	49.9	50.1	-	
南部	452	19.6	48.7	51.3	-	
那覇市	499	21.6	48.5	50.7	0.8	
不明	6	0.3	50.0	50.0	-	
地域計	2,308	100.0	49.3	50.5	0.2	
年齢構成	10歳代	278	12.0	51.1	48.6	0.4
	20歳代	333	14.4	50.2	49.5	0.3
	30歳代	341	14.8	49.0	50.7	0.3
	40歳代	339	14.7	46.3	53.7	-
	50歳代	335	14.5	49.3	50.7	-
	60歳代	341	14.8	49.3	50.7	-
	70歳代	284	12.3	49.3	50.7	-
	80歳代以上	53	2.3	58.5	41.5	-
	不明	4	0.2	25.0	50.0	25.0

【調査時期】平成24年10月6日（土）～11月4日（日）
 【標本数】4,228人
 【有効回答率】54.6%

※各地区における抽出市町村は以下の通り。
 北部：名護市、本部町、恩納村、今帰仁村
 中部：沖縄市、浦添市、宜野湾市、うるま市、読谷村、嘉手納町、北谷町、北中城村
 南部：糸満市、豊見城市、南城市、南風原町、与那原町、八重瀬町
 那覇市：那覇市

<観光客意識調査>

居住地	サンプル数 (人)	構成比 (%)	年代	サンプル数 (人)	構成比 (%)
北海道	7	3.5	10歳代	2	1.0
東北	3	1.5	20歳代	28	14.0
関東	82	41.0	30歳代	42	21.0
中部	24	12.0	40歳代	32	16.0
近畿	35	17.5	50歳代	48	24.0
中国	7	3.5	60歳代	39	19.5
四国	6	3.0	70歳代	8	4.0
九州・沖縄	36	18.0	80歳代以上	1	0.5
計	200	100.0	計	200	100.0

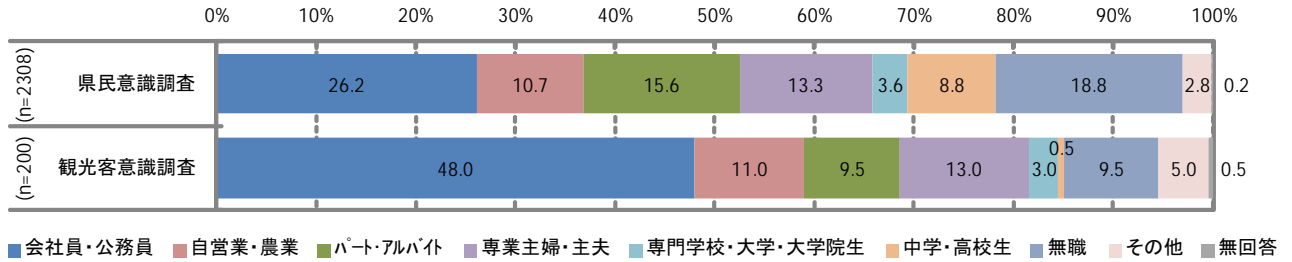
【調査時期】平成24年10月24日（水）～12月31日（月）

【調査票配布数】7,000部

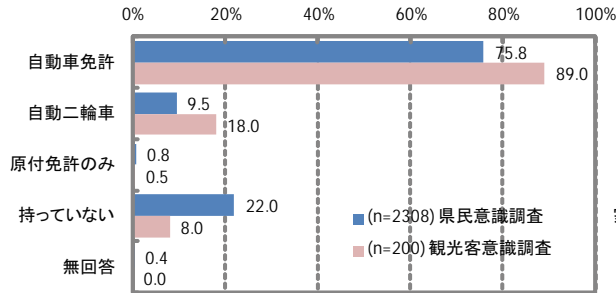
【回収率】2.9%

※居住地の地域は経済産業省の区分に基づく。

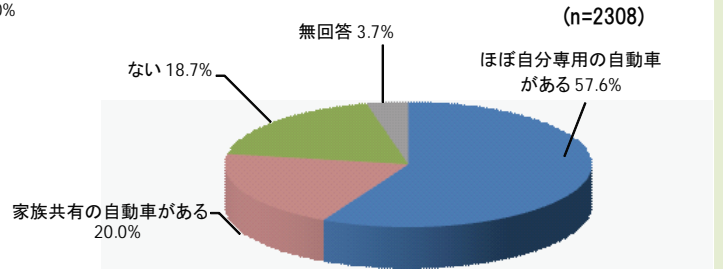
□回答者の職業



□免許保有状況

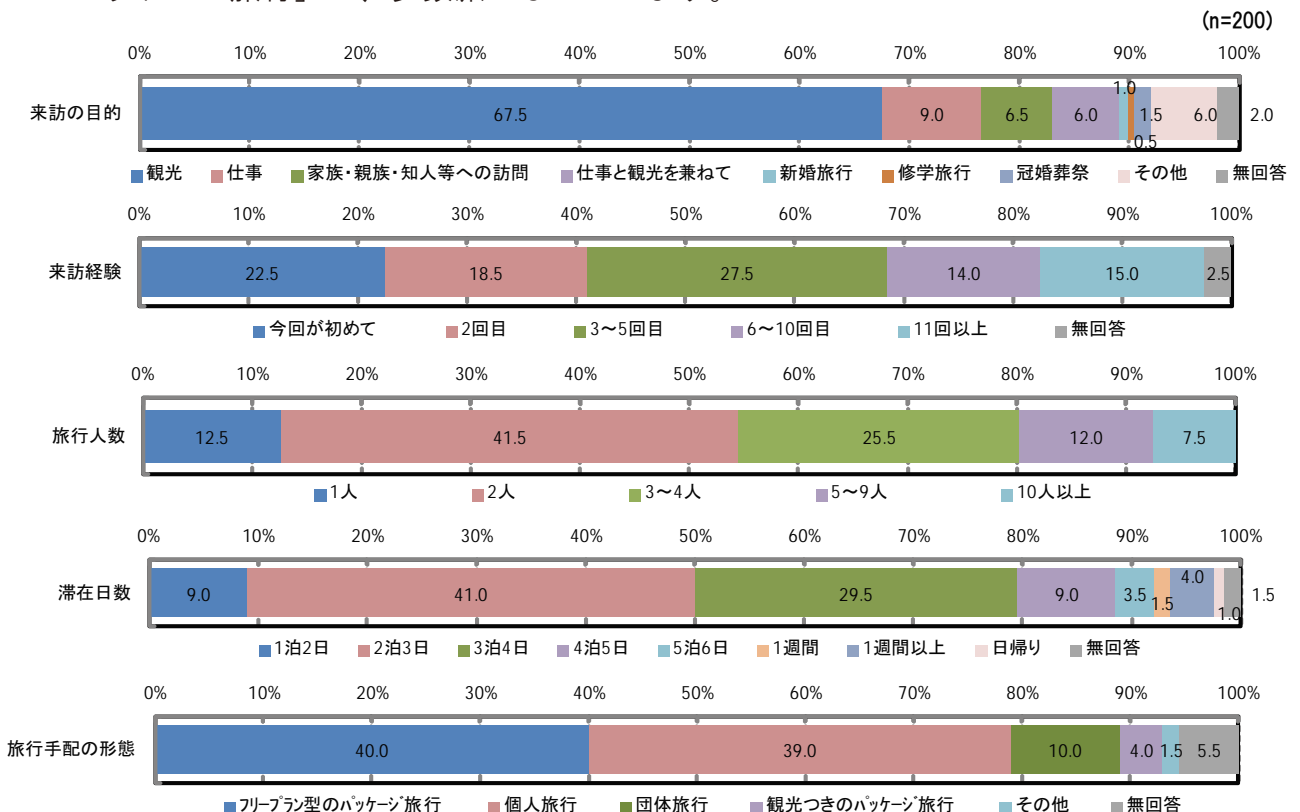


□県民の自動車保有状況



□観光客の旅行形態

- ・ 沖縄への来訪目的は観光が約7割を占めており、来訪経験2回目以上のリピーター率が7割以上と高く、初めて訪れる初回来訪者は2割程度となっています。
- ・ 旅行人数は、2人や3～4人の形態が多く、両方で全体の約7割を占めています。
- ・ 滞在日数は、2泊3日、3泊4日の行程が主流であり、それぞれ全体の約4割、3割を占めています。
- ・ 自由にスケジュールを組むことができる「フリープラン型のパッケージ旅行」や「個人旅行」の比率が高く、両方で約8割近くを占めています。「団体旅行」や「観光つきのパッケージ旅行」は、少数派となっています。



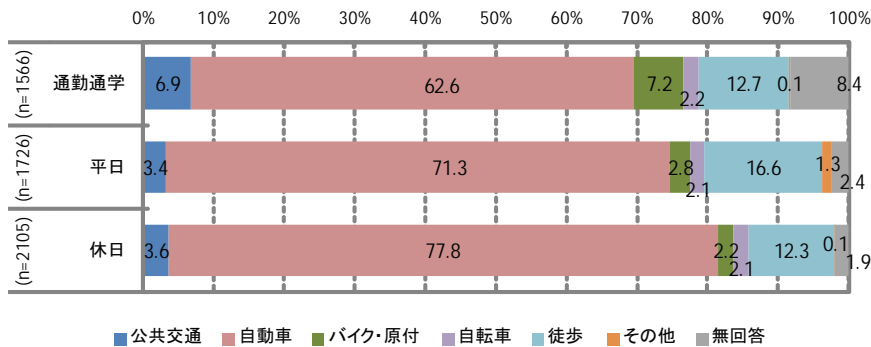
県内の利用交通状況

○県内の交通は自動車利用に大きく依存しており、公共交通の利用は1割に満たない状況です。

<県民意識調査>

□通勤通学時、平日、休日における主利用交通手段

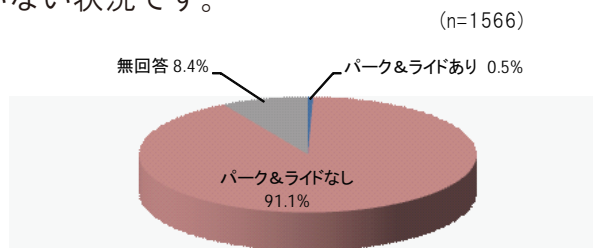
・通勤通学やその他の日常生活や休日における外出時の交通手段として、自動車利用（運転・送迎・タクシーを含む）が6～7割を占めています。



※平日は、通勤通学以外の日常の外出

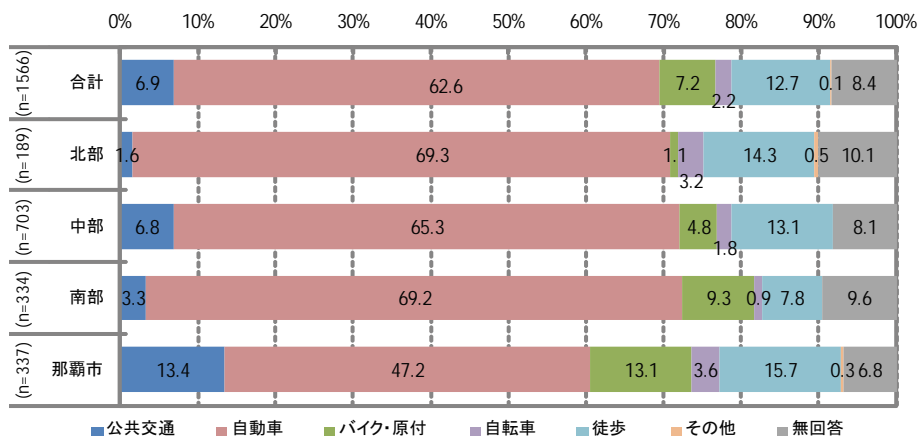
□通勤通学時におけるパーク＆ライドの状況

・通勤通学において、公共交通と自動車を乗り継ぐパーク＆ライドを実施されている方は、ごく僅かしかいない状況です。



□地区別の通勤通学時の代表的利用交通手段

・沖縄本島全体的に自動車利用が高い傾向にありますが、地区別にみると、北部および南部において公共交通の利用が低く、自動車利用が高い状況にあります。

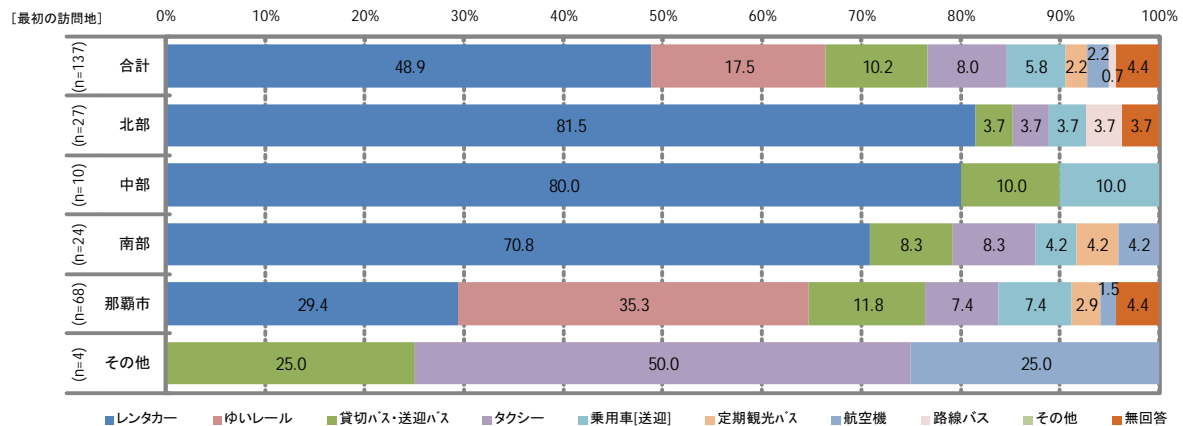


※合計は、居住地区無回答を含む

<観光客意識調査>

□観光目的旅行者の利用交通手段

- ・港湾・空港などから最初の交通手段として、レンタカーを利用する旅行者は全体の約半数にのぼり、本島北部や中部を最初の目的地とする場合は、レンタカー利用率は約8割とさらに高くなっています。一方、ゆいレールの利用は全サンプルでは2割弱ですが、最初の訪問地が那覇市の場合には3割以上の方がゆいレールを利用しています。



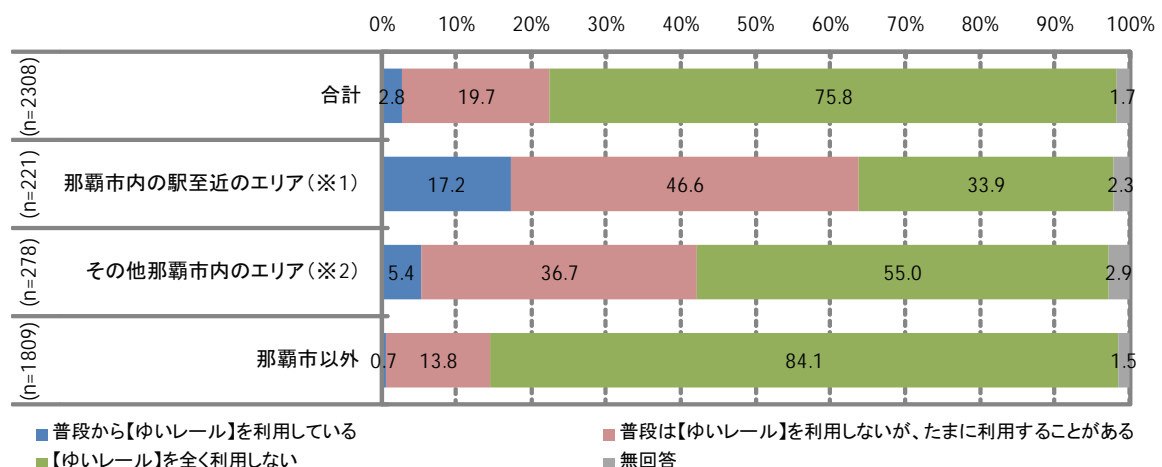
・北部:名護市、国頭郡 ・中部:うるま市、沖縄市、宜野湾市、浦添市、中頭郡 ・南部:糸満市、豊見城市、南城市、島尻群

※合計は、最初の訪問地無回答を含む

公共交通（ゆいレール）の利用状況・利用シーン

□ゆいレールの利用状況

- ・普段からゆいレールを利用する方は約3%、たまに利用する方をあわせても全体で2割程度です。
- ・ただし、ゆいレール駅の至近エリアにお住まいの方に限定すると、普段からゆいレールを利用する方は2割弱。たまに利用される方を合わせると6割以上の方が利用しています。
- ・ゆいレールが利用できる、利用しやすい環境にあれば、様々な場面でゆいレールを利用する機会が広がると考えられます。



※1 那覇市内の駅至近のエリア：田原、壺川、牧志、三原、銘苅、首里大中町、首里久場川町、首里鳥堀町

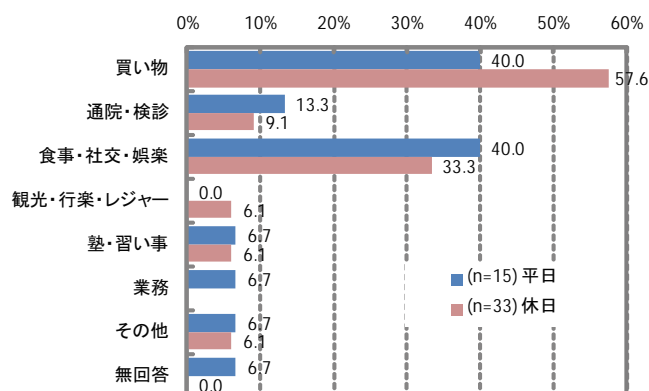
※2 その他那覇市内のエリア：高良、宇栄原、西、樋川、国場、識名、上間、松川、首里池端町、首里大名町、首里石嶺町

□ゆいレールの利用シーン

・通勤通学以外でゆいレールを利用するときの行動目的は、平日、休日を問わず、「買い物」や「食事・社交・娯楽」が多い状況です。

＜たまにゆいレールを利用するシーンとして多いもの＞(自由回答より集約)

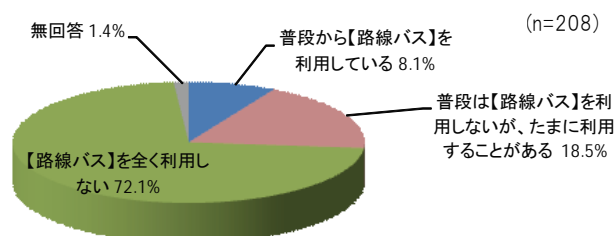
- ◆空港を利用する、空港に行くとき（旅行、出張、見送りなど）
- ◆ゆいレール沿線の目的地（ショッピングモール、市立病院、奥武山公園など）に行くとき
- ◆おもろまち方面、国際通り方面等に遊びや買い物などに行くとき
- ◆飲み会、食事に行くとき
- ◆祭りやイベントに行くとき
（駐車場の確保が難しいとき）
- ◆車検や故障などで車の都合がつかないとき
- ◆ゆいレール自体に乗りたくなったとき
- ◆那覇市内が混雑していると予想されるとき
- ◆知人と待ち合わせをするとき など



公共交通（路線バス）の利用状況・利用シーン

□路線バスの利用状況

・普段から路線バスを利用する方は、約8%、たまに利用する方をあわせると全体の4分の1程度の利用状況となっています。

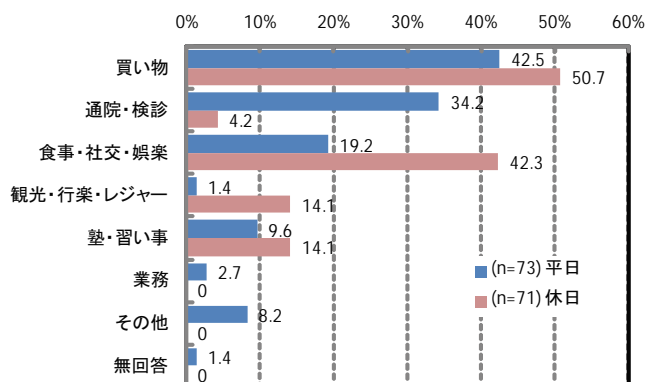


□路線バスの利用シーン

・平日における通勤通学以外の路線バスの利用は、「買い物」や「通院・検診」での利用が多く、休日では「買い物」や「食事・社交・娯楽」での利用が多い状況です。

＜たまに路線バスを利用するシーンとして多いもの＞(自由回答より集約)

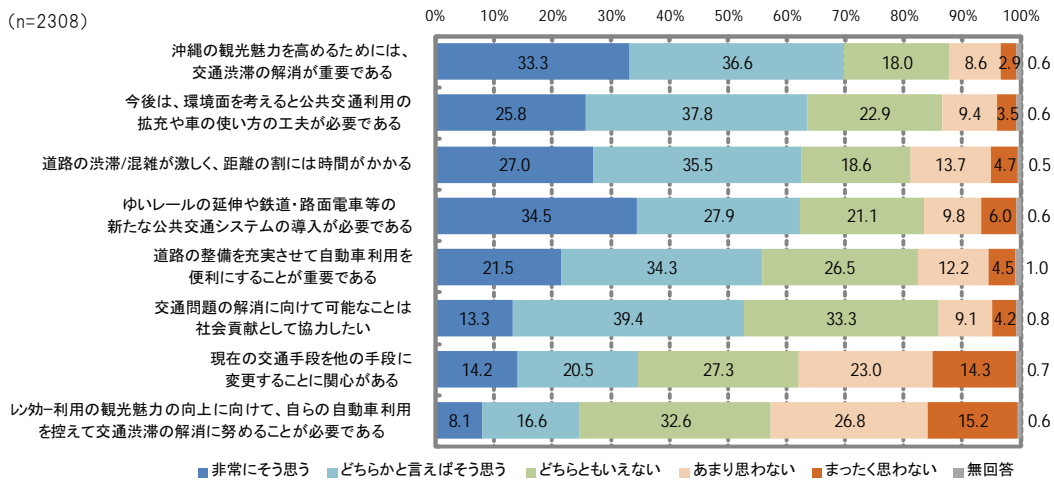
- ◆車検や故障などで車の都合がつかない、家族等で送迎してもらえない人がいないとき
- ◆飲み会、食事に行くとき
- ◆空港を利用する、空港に行くとき
（旅行、出張、見送りなど）
- ◆祭りやイベントに行くとき
（駐車場の確保が難しいとき）
- ◆病院に行くとき
- ◆天候が悪いとき（普段は、自転車、バイク、徒歩による移動）
- ◆最寄りのゆいレール駅までの移動交通手段として利用するとき
- ◆遊びや買い物に行くとき など



沖縄本島の交通事情に対する意見

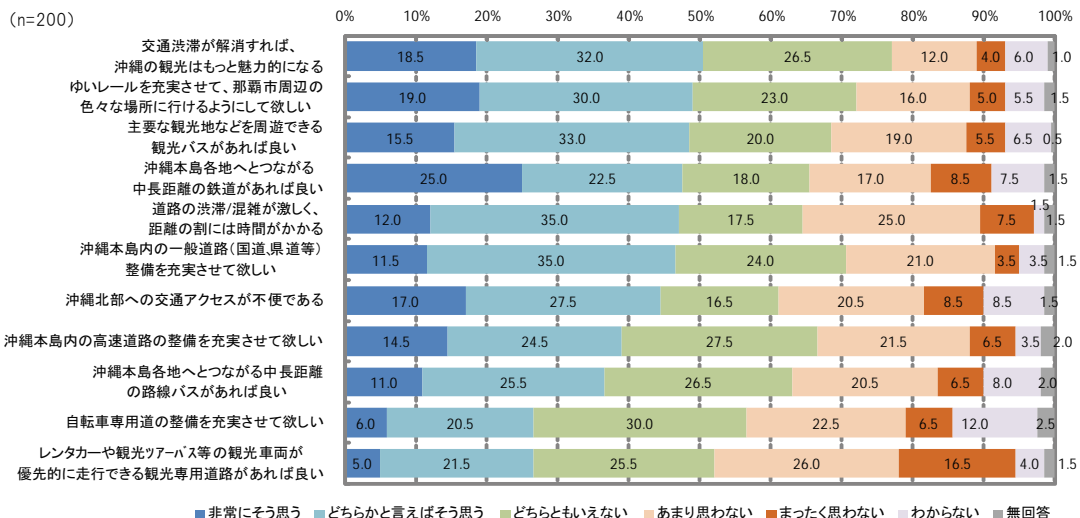
<県民意識調査>

- ・現状の沖縄本島における県民の道路渋滞 / 混雑に対する認識は高く、また、「沖縄の観光魅力を高めるためには、交通渋滞の解消が重要である」という意見も多く聞かれます。
- ・「今後の環境面を考えると公共交通利用の拡充や車の使い方の工夫が必要である」と認識している方は6割以上に達し、「交通問題の解消に向けて可能なことは社会貢献として協力したい」という意見は半数以上と関心が高くなっていますが、現段階で、実際に自らの交通手段を変更しようとする意向は3~4割程度と必ずしも高いとはいえません。
- ・ゆいレール延伸や新たな公共交通システム導入の必要性を訴える声は6割以上にのぼる一方で、「道路整備を充実させ自動車の利便性を高めてほしい」とする声も多く聞かれます。



<観光客意識調査>

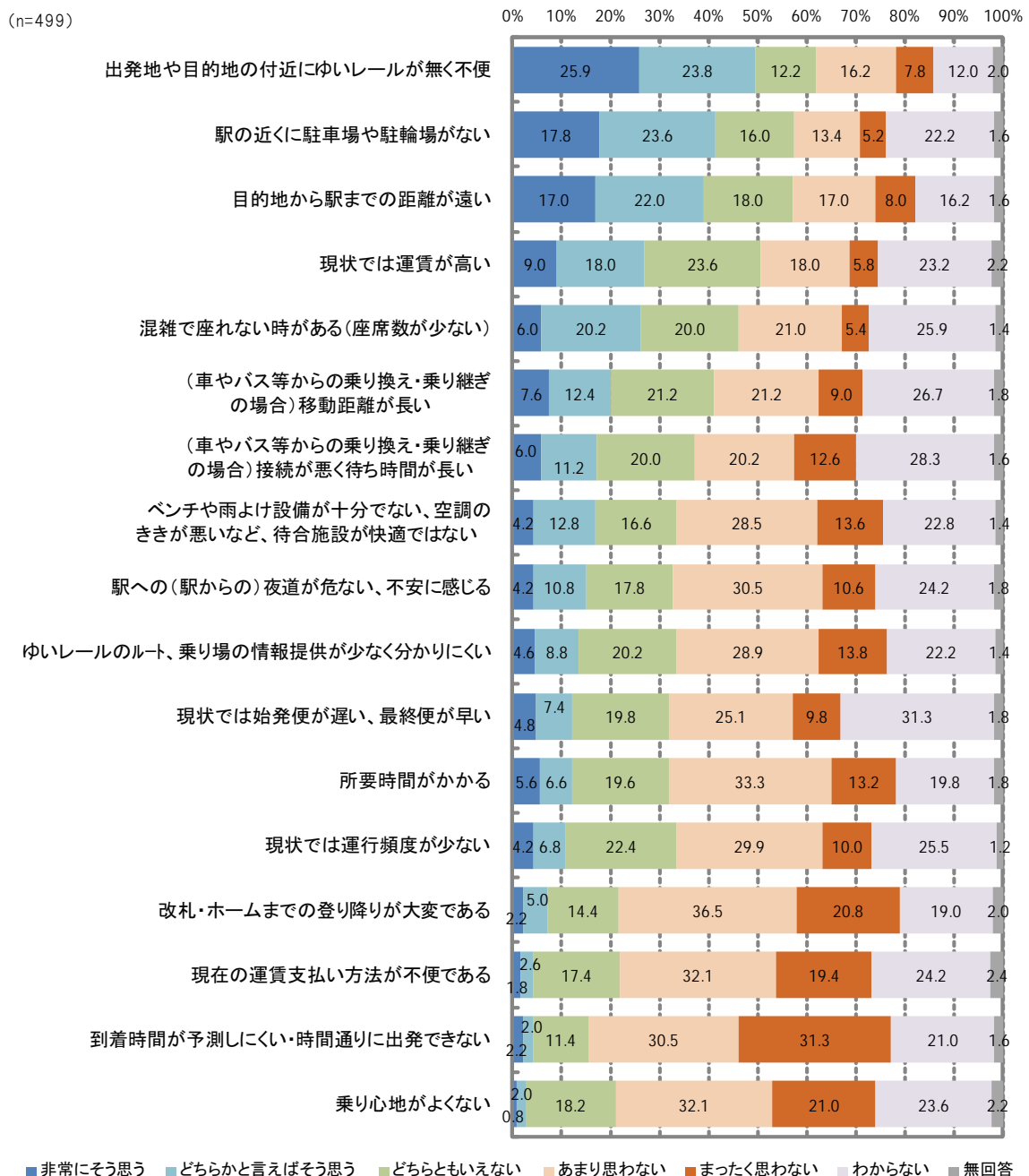
- ・「道路の渋滞 / 混雑が激しい」という意見が5割弱あり、「交通渋滞が解消すれば、沖縄観光はもっと魅力的になる」という声も多く聞かれます。
- ・「沖縄北部への交通アクセスが不便である」という認識が高く、本島各地へとつながる中長距離の鉄道や主要観光地を周遊できる観光バス等に対するニーズもみられます。
- ・那覇市内の移動については、「様々な場所に行けるようにゆいレールを充実させてほしい」という声もよせられました。



現状の公共交通利用に対する意見（ゆいレール）

<県民意識調査>

- ・ゆいレールの利用に対する不満や不便に感じることで、「出発地や目的地の付近にゆいレールが無く不便」という意見が多く、ゆいレールを利用しやすい、あるいは利用できるエリアが限られていることへの問題意識が高いといえます。
- ・「駅の近くに駐車場や駐輪場がない」という意見が多く、他の交通手段からの乗り継ぎに際して、不便さを感じている方も多くみられます。

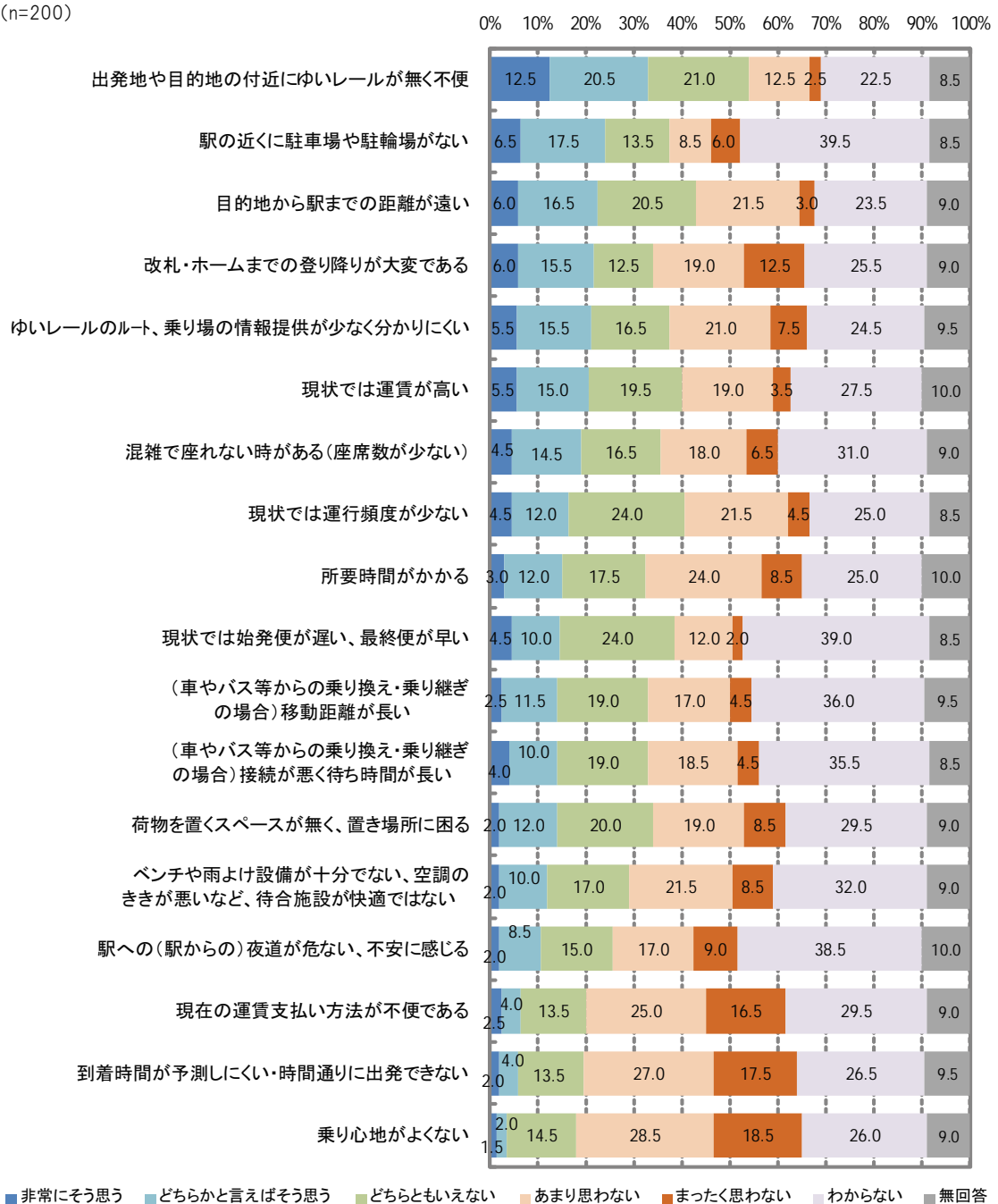


※那覇市在住の回答者 499 人のご意見

＜観光客意識調査＞

- ・「出発地や目的地の付近にゆいレールが無く不便」とする意見が多く、那覇市内の様々な観光地へ行けるような交通手段として、ゆいレールの拡充を求める声も多く聞かれます。
- ・「駅の近くに駐輪場や駐車場がない」、「改札・ホームまでの登り降りが大変である」、「ゆいレールのルート、乗り場の情報提供が少なく分かりにくい」という意見も多く、利用しやすい環境整備の推進、駅を案内する街中でのサイン表示や観光客向けの情報提供のあり方についても改善してほしいという意見もよせられています。

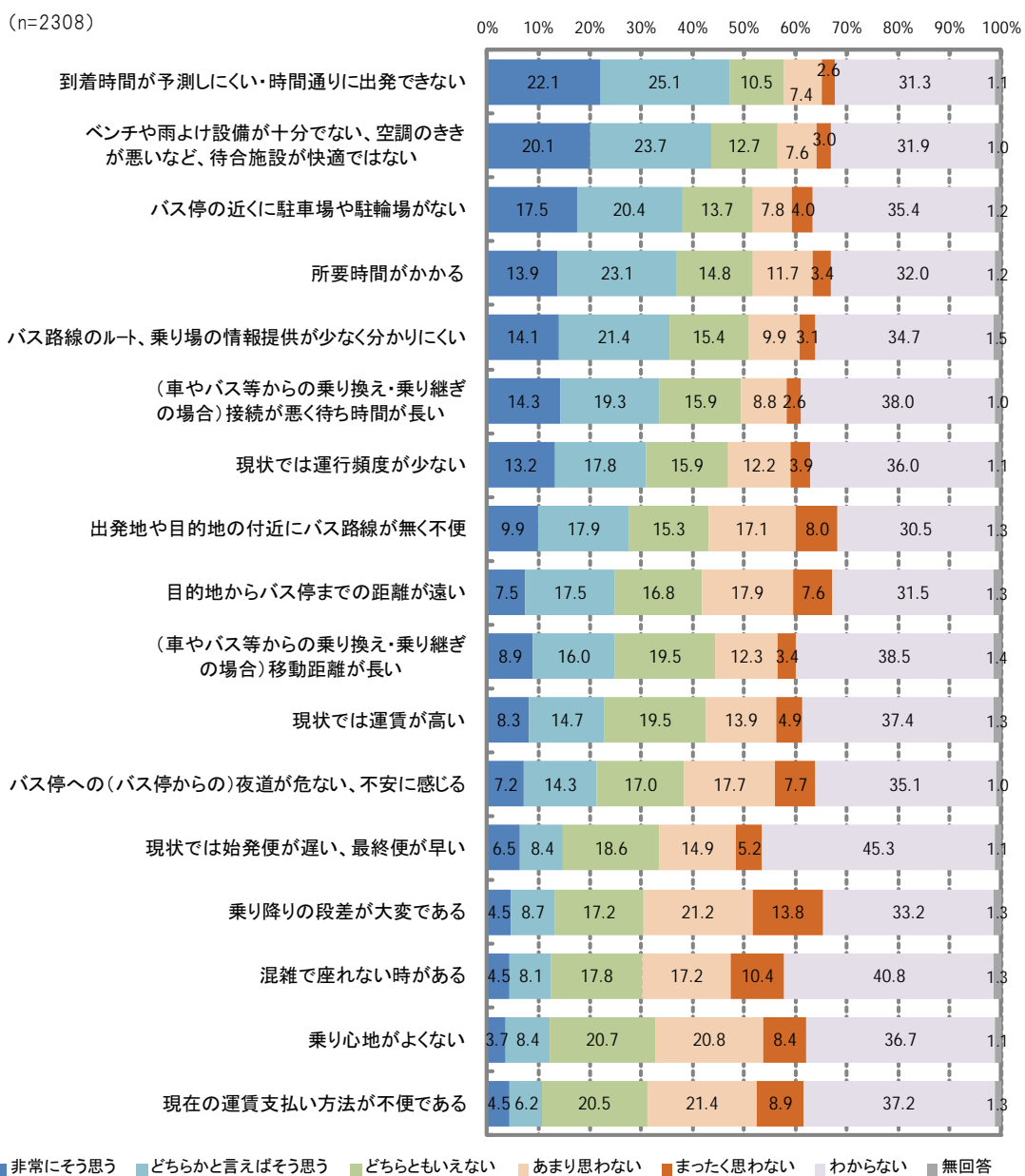
(n=200)



現状の公共交通利用に対する意見（路線バス）

<県民意識調査結果>

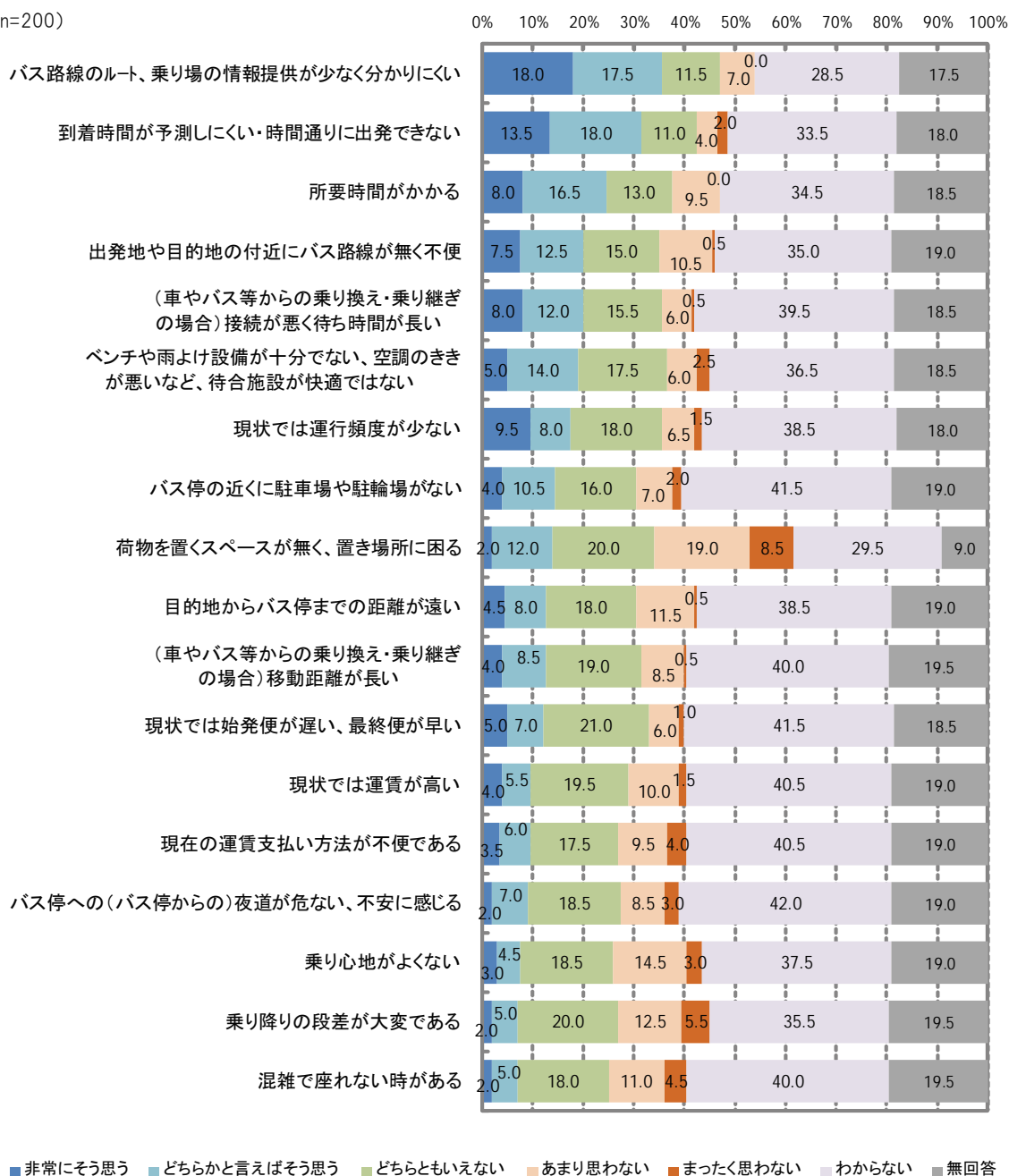
- ・路線バスの利用に対する不満や不便に感じることで、「到着時間が予測しにくい・時間通りに出発できない」、「ベンチや雨よけ設備が十分でないなど待合施設が快適ではない」ことに対する意見が多く、交通渋滞などの交通環境に起因する問題に加えて、公共交通としてのサービス提供水準への問題意識が高くなっています。
- ・バス路線・バス停に関する情報提供のあり方、乗り換え・乗り継ぎ利便性に対する問題に関する意見も多く、路線バスのサービス水準の向上のほか、他の交通手段を含めた総合的な交通体系の充実が必要であると考えられます。



<観光客意識調査結果>

- ・「バス路線のルート、乗り場の情報提供が少なく分かりにくい」、「到着時間が予想しにくい・時間通りに出発できない」という意見が多く、また、県民と観光客ともに、路線バス利用に対する意見や不便な点として「わからない」という回答が多く、路線バス利用の関心が薄いことがうかがえます。

(n=200)

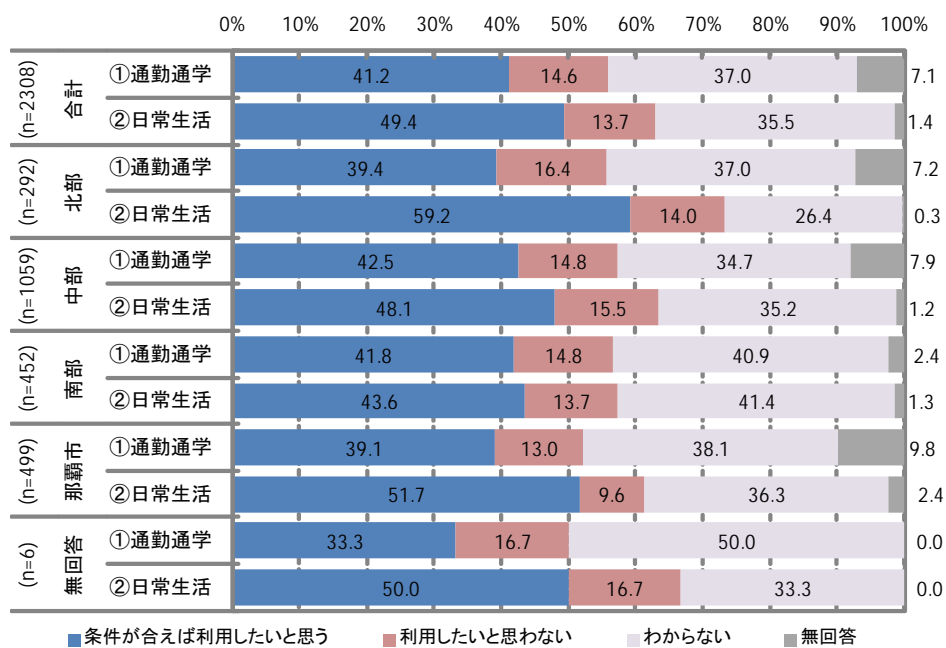


新公共交通システムが整備された場合の利用意向

- ・ 沖縄本島を南北に縦貫する鉄道や路面電車などの新たな公共交通システムが整備された場合の利用意向は、①通勤通学時の移動手段としては概ね4～5割程度、②その他の日常生活の移動手段としては概ね4～6割程度の方から、条件があれば利用したいという回答がよせられています。
- ・ ①通勤通学時の移動手段としては、本島中部エリアの利用意向がやや強い傾向にあり、②その他の日常生活の移動手段としては、本島北部エリアの利用意向が強く、新公共交通システムに対する期待があらわれています。
- ・ 観光客からは6割程度の方から新公共交通システムを利用したいという声が聞かれました。

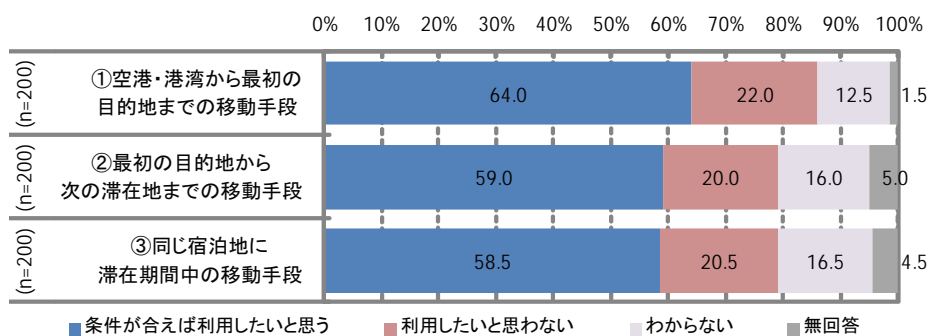
＜県民意識調査結果＞

- ①通勤通学時の移動手段としての利用意向
- ②通勤通学以外の日常生活の移動手段としての利用意向



＜観光客意識調査結果＞

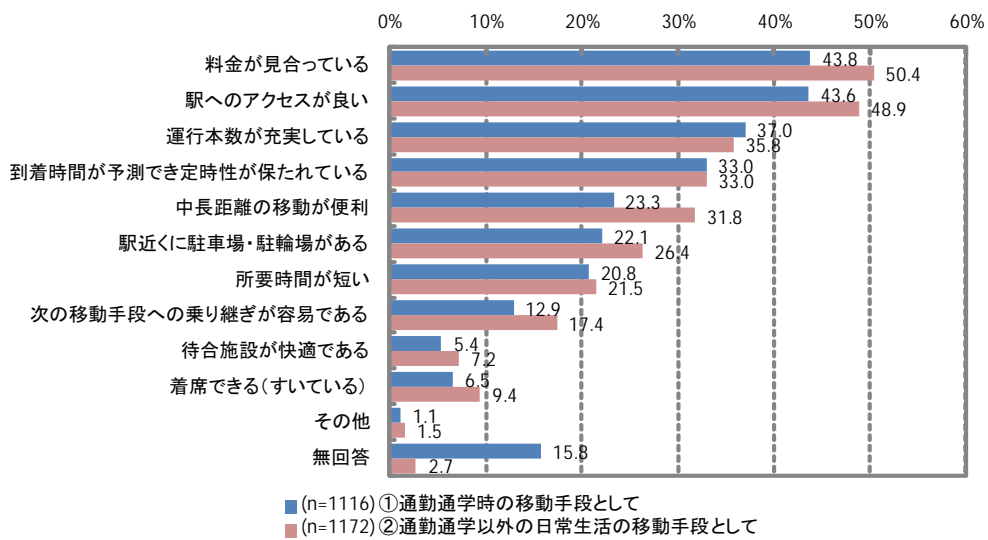
- ①空港・港湾から最初の目的地までの移動手段としての利用意向
- ②最初の目的地から次の滞在地までの移動手段としての利用意向
- ③同じ宿泊地に滞在期間中の移動手段としての利用意向



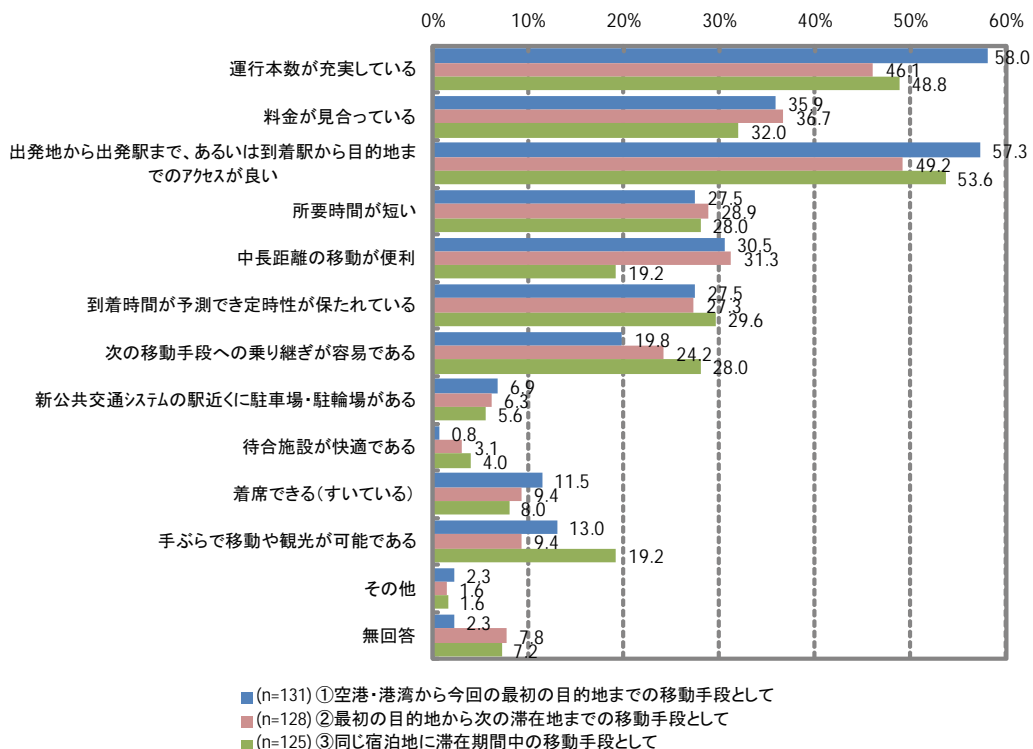
新公共交通システムの利用を想定した際に重視する条件

- ・新公共交通システムの利用を想定した際に重視する条件としては、県民からは、「料金」への関心が最も高く、続いて「駅からの交通アクセス」に対して高い関心がよせられています。その他、「運行本数」、「定時性の確保」を重視する声が多くなっています。
- ・観光客からは、「運行本数」への関心が最も高く、続いて、「駅からの交通アクセス」に対して高い関心がよせられています。

< 県民意識調査結果 >



< 観光客意識調査結果 >



自由意見

<県民意識調査結果>

■現在の交通事情に対して、次のような問題意識がよせられています。

- ・ 沖縄本島の都市部では道路が複雑に張り巡らされ、交差点が増えることで混雑を招き、また、自動車利用を前提とした街づくりがなされていることも、自動車交通量を増やす要因になっている。
- ・ 道路の渋滞は年々ひどくなり、自動車の利用も面倒に感じる状況も出てきている。
- ・ 自動車利用は便利であるが、沖縄本島の道路事情は早急に解決していかなければいけない課題である。
- ・ ゆいレールを利用したいが、最寄りの駅まで行くためには自動車以外の交通手段がなく、また、駅周辺には駐車場がない。どうせ自動車を利用するならそのまま目的地まで行った方が早くて便利である。
- ・ ゆいレールは一部の地域の人たちだけが恩恵を受けていると感じる。税金を支払っているのに、利用できない環境にあることは不公平であり不満がある。
- ・ 都市部だけが公共交通が比較的充実していると感じる。都市部以外では、公共交通が不十分であり、利用者の減少→サービスの低下→利用者の減少と、負のスパイラルに陥っている。
- ・ 現在のゆいレールや路線バス等の公共交通には、改善が必要な点が多くある。

ゆいレール：延伸、駅周辺の駐車場等の整備、利用促進のための割引制度の導入、他の公共交通との連携強化など
路線バス：バス停への雨よけ・日よけ・ベンチの設置など待合設備の充実、定刻運行の徹底、運転マナーの向上、車内美化、案内表記の充実、利用しやすい運行ルート・運行本数の再考など

■新たな交通システムとして鉄道・路面電車などの鉄軌道の整備を求める声があります。

- ・ 沖縄本島は南北に長いので、鉄軌道の縦貫できる新交通システムができれば便利になると思う。鉄道などの駅が、家の近くにあれば利用したい。
- ・ 鉄道などが整備され自動車の利用が少なくなれば環境面にもよいと思う。
- ・ 那覇市だけでなく沖縄全域に、なるべく初期の建設コストがかからない方法で、ゆいレールや路面電車や鉄道などを臨機応変に設置してほしい。
- ・ 鉄道などが整備された場合でも、一部の人たちだけが利用できるものではなく、駅などを拠点として接続する交通網を充実させ、県民全体が利用できるようにすることが望ましい。

■鉄軌道の導入に対する慎重意見もよせられています。

- ・ これだけ自動車利用が増えている現在において、鉄道が整備されても利用を切り替える人がどれくらいいるのか。
- ・ 鉄道等を新設しても黒字になるとは思えない。採算性をきちんと検討してほしい。
- ・ 公共交通だとしても、費用対効果を十分に検証し、人口や産業分布を考慮すべきである。

■移動制約を持つ人にも便利な交通システムが必要との意見もよせられています。

- ・高齢化が進んでいる中で、自立しながら老いていける環境が、生きていく上での活力になる。移動することを他人に頼むしかない高齢者のために、鉄道、路面電車等の公共交通機関が整備される日が来ることを望む。
- ・現在は、幹線道路沿いに住んでおり、交通の不便さを感じたことはないが、今後高齢となった場合には運転免許を返上しようと考えている。高齢者も利用しやすい交通システムを構築してほしい。

■総合交通体系を充実させる視点で検討を進め、交通問題の解消を図っていくことが必要との意見もよせられています。

- ・普段自動車を利用している人が、時々でも公共交通を利用できる状況や仕組みが整っていればよい。
- ・安くて早く、渋滞に関係のない交通システムが必要です。車がなくても生活できるようになればいいと思う。
- ・今後は公共交通が利用できる環境を整えたいと思うが、近場だとどうしても自動車利用になってしまう。県民の意識を変え、公共交通利用の充実を図ることができればよい。

<観光客意識調査結果>

■沖縄を訪れた観光客からは、本島の交通手段や交通状況に対して次のような意見がよせられています。

- ・旅行行程が限られていたためレンタカーで移動したが、渋滞により交通状況を予測することが難しく時間が読めないため、北部にある観光地へ行くことを断念した。
- ・路線バスが複雑で、定時性がないため気軽に利用することができなかった。
- ・北部に向かうために高速バスを利用したが、早い時間帯で運行が終わっており、便利な交通手段とは思えなかった。
- ・沖縄の渋滞はある種の名物になっているが、外国人観光客はどのように感じているのかと考えてしまう。
- ・交通渋滞とバスやトラックの排気ガスが激しく、訪れるたびに残念に思う。
- ・長距離移動が非常に不便であり、本島を縦断する鉄道などが整備されれば、観光利用だけでなくビジネス利用にも必要であると感じる。
- ・本島南北の交通手段から東西への充実した交通アクセスと観光各所へのアクセス、空港から北部へのアクセスの充実など、観光面やビジネス面における使い易さが必要である。
- ・沖縄本島の公共交通機関の充実は渋滞の解消に役立つと思うが、鉄道や高速道路を整備し過ぎて自然が失われるのは悲しい。沖縄の魅力は美しい自然であるため、ゆっくり移動し、ゆっくり見るのもよい。
- ・新公共交通システムは、沖縄独特のまちなみに溶け込むような交通機関であってほしい。
- ・観光は沖縄の重要な産業だと思うが、観光ばかりに重点をおいた公共交通の整備だけでなく、沖縄本来の伝統を残し、県民の方の生活を不便にしないような公共交通を検討してほしい。

お問い合わせ

〒100-8970 東京都千代田区霞が関3丁目1番1号

内閣府政策統括官（沖縄政策担当）

TEL：03-3581-2763

〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち2丁目1番1号

内閣府沖縄総合事務局 総務部調査企画課

TEL：098-866-0047

（平成25年1月）